アーカイブ室新聞　（2010 年 5 月 19 日　第 333 号）

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室　中桐正夫

＊　塔望遠鏡の観測野帳発見

塔望遠鏡の建物は有形登録文化財に登録されている。そのドームの雨漏りがひどく昨年末にドームの雨漏り対策としてドームの銅板の葺き替え工事を行った。引き続き年度末には通電を止められていた塔望遠鏡室の電力回復工事を行った。そしてこの有形登録文化財である塔望遠鏡の有効利用を考え、まずは大々的な掃除を行っている。

その掃除の途中、机の上の雑物の山の中に埃にまみれた「塔望遠鏡の観測野帳」を発見した（写真 1）。この野帳には 1956 年 3 月から 1966 年 5 月までの 10 年間の記録がある。

写真 1　発見された塔望遠鏡観測野帳

この観測野帳は 1956 年から始まっている。塔望遠鏡の梱包を解いて設置したのは 103 歳でご健在の藤田良雄先生である。藤田先生が塔望遠鏡を立ち上げた際書かれた記事が天文月報第 28 巻第 3 号（1935 年）にある。この記事の中に 3 個のプリズムを用いた分光器について書かれている。この 3 個のプリズムは筆者の手で保管されているから、この分光器については稿を改める。

この観測野帳には日付は入っているが、観測者、担当者の名前が一切書かれていないという奇妙なものである。まず第 1 ページが写真 2 である。

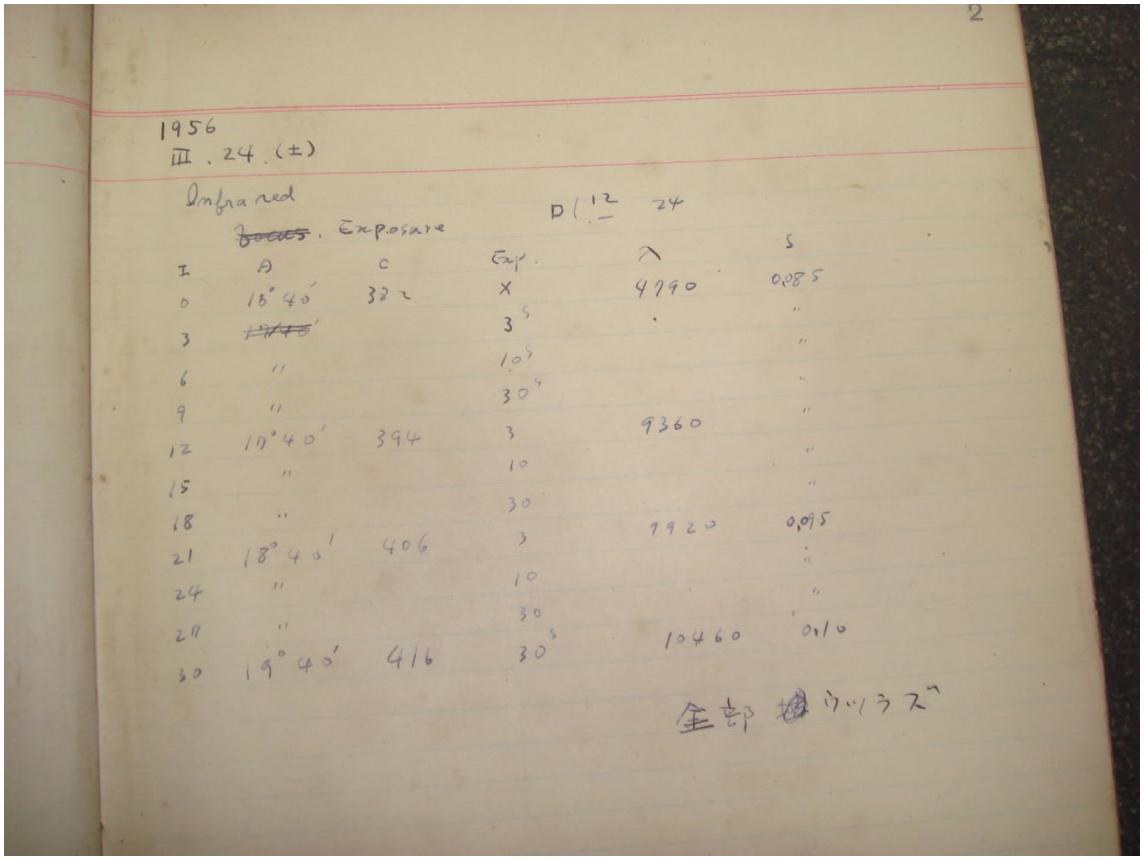

写真２　塔望遠鏡で発見した観測野帳１ページ

１ページは 1956 年 3 月 24 日土曜日から始まっている。1956 年は昭和 31 年である。赤外線の観測をしたようであるが、「全部ウツラズ」と記載されている。こういった観測野帳には観測者、担当者の名前を記すことが義務ではないのかと思うが、塔望遠鏡は決まった観測者しか使用しなかったから、当然誰と書く必要もなかったのであろうが、50 年以上の年月を経て、もはや観測者が誰とも知れぬのは残念である。

最後に近いページが写真 3 である。

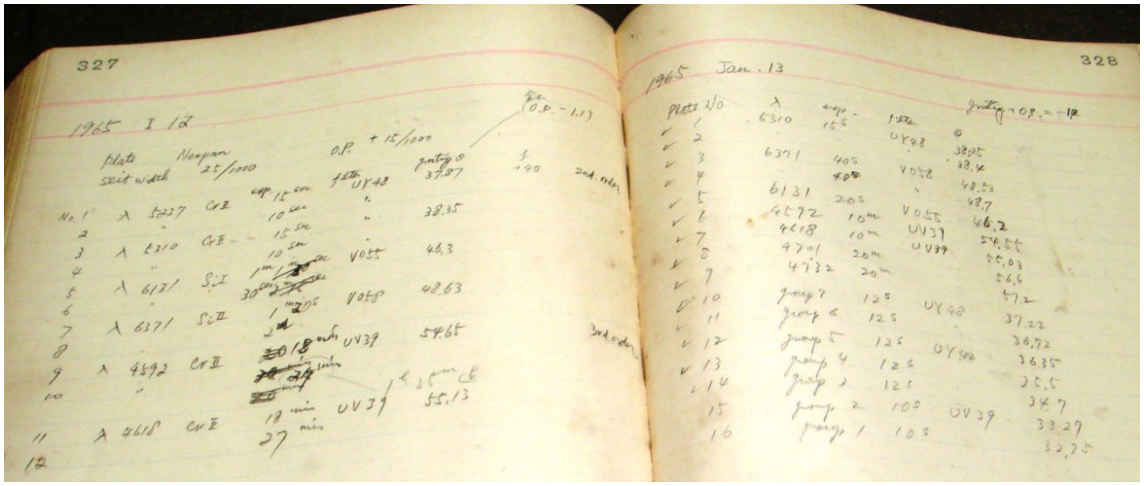

写真３　1965 年 1 月のページ

そして最後のページが写真 4 である。1966 年には筆者は塔望遠鏡を担当していた。

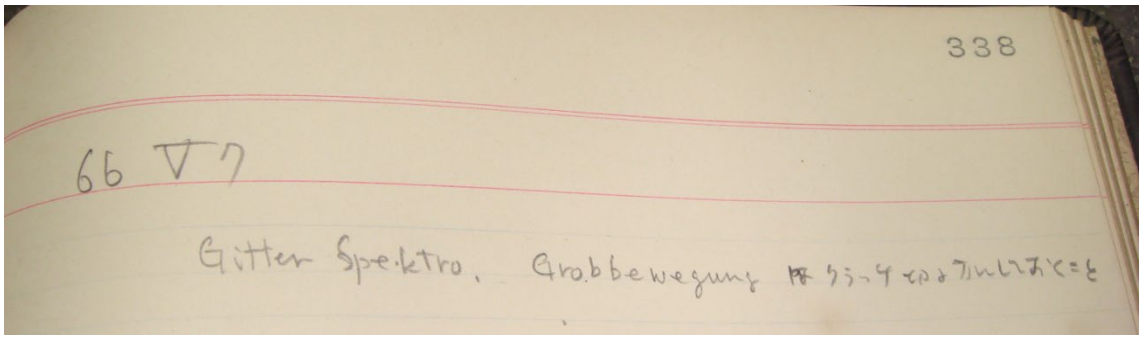

写真 4　発見された塔望遠鏡観測野帳の最後のページ

筆者は、1966 年 4 月、岡山天体物理観測所から三鷹の東京天文台に転勤し、死んでいた塔望遠鏡を復活させることが最初の仕事であった。5 月 7 日には観測が始まっていたという証拠でもある。塔望遠鏡復活のために秋葉原に通った遠い日を思い出している。